

日本ユニシス株式会社

2007年3月期 決算説明会(2007年5月10日開催)

主な質疑応答

内容につきましてはご理解いただきやすいよう部分的に加筆・修正をしております。

【業績見通しについて】

Q: 不採算プロジェクトの赤字額を今期は 35 億円に減少させるとのことだが、もっと削減できないものか。

A: 不採算化が見えている案件は、前期すでに見込み損失として引き当てているため、そもそも不採算の見通しを業績見通しに織り込むことは非常に難しい。

これまでは、顧客との間で要件定義が曖昧だったり、途中のフォローが不徹底だったりというのが不採算化の大きな原因だった。今期からは、提案前からの審査やアドバイスを徹底的に行い、さらにプロジェクトの進行過程でのチェック体制も強化し、赤字額の3割削減を見込んでいる。

Q: 2009年3月期の営業利益見通しの背景を教えてください。

A: 今期からスタートする大型アウトソーシングの先行負担が、今期に比べれば減少するものの、来期もまだ残るため、今期の営業利益見通し 190 億円から約 5%増の 200 億円としている。さらなる上積みになんとかトライして行きたいと思っている。

【事業戦略について】

Q: 今回の組織変更で、日本ユニシス・ソリューションをもう一度日本ユニシス本体に吸収した。数年前の形態に戻しただけのように見えるが、その目的を教えてください。

A: 会社が分かれている上での一番の問題点は、SE と営業の一体感だ。このため、今回営業と SE を集約したのだが、以前は事業部門ごとに分かれていた SE を、今回は一箇所に集約している。今後は事業部の壁を越え、SE と営業が一体となってもっと柔軟に動くことができると考えている。

【ネットマークスに対する TOB について】

Q: ネットマークスによる 4 月 10 日の大幅業績下方修正は想定していなかったと思うが、これに対してどう対応するのか？

A: ネットマークスが 2 月 2 日に業績下方修正したことを踏まえて、我々は外部の専門家によるデューデリジェンスを行った。ところが、TOB 終了予定日寸前の 4 月 10 日になってネットマークスがさらに大幅な下方修正を発表したが、今の法制度では TOB の撤回も、価格の引き下げもできない。

Q: ネットマークス社の来期黒字化に向け、無駄なものがあれば削るなどの対策を行うのか

A: ネットマークスの買収が成立した場合には、当然、両社の利益の最大化に向けてありとあらゆる手段を講ずる。共同仕入れ、拠点統合、ネットマークスが外注していたものをユニアデックスに取り込む等、やるべきことはたくさんある。

ネットマークスの買収は当社の戦略にとって非常に重要であり、今後2~3年、遅くとも5年以内には日本ユニシスのバリューアップに確実に繋がると考えている。

【配当政策について】

Q: 配当政策に対する考え方について教えて欲しい。

A: 株主への還元には、配当と企業価値を上げて株主がキャピタルゲインを得る方法がある。当社は成長戦略をとっており、そのための資金需要との兼ね合いを見て配当政策を決定していく。連結配当性向20%を当面の目標として、昨年の1株当たり年間7円50銭から段階的に上げていく方針。当社を拡大成長路線に持つていくためにまだ資金が必要なため、今期の配当見通しを12円に設定した。

以上

(注)本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。